


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()		
	単元(題材)名	日本音階を使って作曲をしよう		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「リズム」、「旋律の動き」、「最後の音」を決められた中から選択する。 ・組み合わせて旋律を作る。 ・自分のイメージに近づくように作る。 		
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等	部	普通1～3 年 10 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<p>音楽の作曲に必要な音符・階名・リズムといった基本的な知識をもっている生徒と知識や楽器経験のない生徒がいる。</p> <p>小学校・中学校の音楽で音選びから始まって、楽器選び、リズム選択などを段階的に学んでいる。また、音階や日本音階に関する知識をもっている生徒はほぼおらず、小学校5年生の題材であるが、やったことがあるという生徒はいなかった。</p>		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad		
	使用したアプリケーションの名称	Flat		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
I C T 活用のねらい	<p>アプリを使うと作曲した曲を自動演奏してくれるので、作曲途中で何度も聞き直したり、完成したものを簡単に発表したりできる。また、作曲したものを楽譜に書き表す時のルールを覚えるのが大変であり、本来の作曲をするという活動よりも楽譜を書くという作業の方に時間がかかってしまうが、このアプリを使うことで作曲をするという活動に時間を十分使うことができる。</p>			
活用の状況と支援	活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ○活用場面 <ul style="list-style-type: none"> ・作曲したものを楽譜に書き起こすときに活用した。 ○行った支援 <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの操作方法を生徒と一緒に使いながら確認した。 ○生徒の様子・変容 <ul style="list-style-type: none"> ・「テンポを変える」「楽器を選んで音色を変える」ことが簡単にできたため、自分のイメージに近づけて再現でき、和のイメージの曲を作った生徒もいれば、和のイメージとは関係なく海の中に漂うクラゲのイメージで作った生徒もいた。テンポが速く自分で演奏するのは難しい曲でも発表でき、個性豊かな作品が生まれた。 ・作った曲をクラスルームに貼り付けて、友だちが作曲した作品を好きな時間に何回でも聴くことができた。 		

